

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述 (1行30字 2行×1・3行×3・5行×1・6行×1 計22行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

第1問～第4問とも昨年度と同様の出題形式であった。

その他のトピックス

第4問で、戦後史単体の問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 6行	古代の財政と国家的造営工事のあり方の変化	古代における支配構造の変化が理解できていれば、各時期の違いは書きやすかったであろう。	標準
第2問	論述 5行	家督継承決定のあり方の変化と応仁・文明の乱	武士の家における家督継承の決定の変化を文章から読み取るとともに、それが将軍権威とどのように関わっていたのかを論じる必要があり、難しかったであろう。	やや難
第3問	論述 A 2行 B 3行	A 寄席の特徴 B 寄席と幕府の都市政策	天保の飢饉を含めた当時の社会状況が理解できたか、また、幕府の政策を見誤らずに説明できたかがポイントとなる。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	A 占領終結～岸内閣期の対外関係 B 1950年代後半～岸内閣期の政党間対立	Aは冷戦の動向に着目し、日本とアメリカとの関係を軸に考えれば書きやすかったであろう。Bは政党間の対立を簡潔に説明できたかがポイントとなる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

できるだけ多くの過去問にあたり、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、第1問から第3問でみられる提示された文章の答案への反映の仕方にできるだけ早く慣れたい。また、第4問の近現代に関しては正確な知識が要求されるので、量よりも質を意識した学習を進めたい。さらに、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、各文化の特徴を把握しつつ政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。